

平成25年度伯耆町 一般会計予算提案理由



平成25年 第1回定例会

平成２５年度一般会計予算の提出にあたりまして、
町政の方針及び一般会計予算の大要を申し上げます。

まず最初に、本年１月の町長選挙において、当選の栄誉を賜り、向こう四年間の町政を担当するに当たり、これまでの経験と実績を踏まえつつではありますが、環境の変化や新たな課題、住民ニーズ等に対し、迅速かつ効果的なアプローチを心がけ、本町が住みよい町としてより一層レベルアップできるよう努力してまいり所存であります。議員の皆様をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、昨年、平成２４年を振り返ってみますと、経済の低迷や東日本大震災からの復旧・復興の遅れ、さらには気象変動等によると思われる集中豪雨被害など課題の多い一年でありました。幸いにも本町においては大きな災害はありませんでしたが、防災の重要性を改めて認識した一年でありました。一方、

夏にはロンドンオリンピックでのメダルラッシュがあり、我が国の復活・再生に明るい兆しも予感される中、年末の総選挙の政権交代により、自由民主党・公明党による政権が発足しました。デフレからの脱却を目指した各種の取り組みが順調な滑り出しをみせており、防災減災対策等を盛り込んだ大型の補正予算に対し、本町におきましても、学校施設の改修や道路・橋梁の安全点検や長寿命化に積極的に取り組むこととしております。加えて、消費税増税後の社会保障制度の具体化や外交通商面の課題など数多くの難題を、いかに大局的かつ国民目線に基づいて対処していくのか、大きな注目を集めるとともに、私たち国民にとっても自覚と責任が求められる本年になるものと思います。他国のリーダーの言葉を借りれば、私たちは今まさに、「民主主義の終わりなき旅」の道中にあります。多様な思想、多様な意見があり、簡単には方向性が定まらない状況下にあって

も、あきらめず努力し工夫を重ね、先見性のある議論を積み重ねることこそが、より良い社会を構築することにつながるものと信じる次第です。どうか町民の皆様におかれましても、引き続き、政治的な関心を高めていただくよう、この場を借りてお願いいたします。

本町においても、国際的な課題や国内の経済情勢などの諸課題と無縁でいることはできません。加えて、高齢化や中山間地を巡る課題など、他の地域以上の厳しさがありますが、将来を担う子どもたちの教育の充実や地域ぐるみの健康づくり、さらには防災・エネルギーなど、数多くの課題に対して、一つ一つ丁寧に、その解決を図っていかねばならないと考えております。その過程を通じて住民と行政のパートナーシップがより強いものとなり、本町がさらに住みよい地域となっていくことを期待するものです。平成22年度末に町の総合計画を策定し、懸案

であった学校施設の耐震改修などインフラの整備を進めるとともに、福祉事務所の設置や可燃ごみの減量化など住民生活に身近な分野の改善に取り組んでまいりました。また、民間事業者による投資も、東日本大震災からの再起をめざされた取り組みが大きな成果をもたらされるほか、町内の遊休地を活用したメガソーラーの立地など、多くの積極的な姿勢が発揮されました。このように、民間と行政の姿勢が相まって、本町の元気をより一層アピールするものとなったことを、私としても充実感をもって評価しているところです。

本年は、五月に全国植樹祭がとっとり花回廊をメイン会場として開催されるほか、写真家植田正治さんの生誕百年を記念する各種のイベントが予定されています。本町の自然環境や文化などの地域イメージの向上につながるよう、町民の皆様の積極的な参加をいただきながら取り組みを進めていきたいと考

えております。一方、町財政においては、かつての危機的な状況は遠のいたとはいえ、依然として過去に実施した多額の投資的事業に対する公債費負担は高い水準にあり、社会福祉的経費の増加など少子高齢化社会への対応を筆頭に、待ったなしの課題も数多くあり、油断できない状況におかれています。しかしこのような中であるからこそ、住民、地域組織、企業などと行政が協働して地域を創りあげていく一層の取り組みが求められており、このことが持続的で安定的なつながりになるものと考えています。優れた自然景観や豊富な人材、充実が進む社会基盤など地域の大きな財産を最大限に活かし、時代が大きく変化しつつある今、地域の可能性を見据え、中長期的な視点で施策を講じていきたいと考える次第です。

とりわけ、新年度予算編成において重視した点に、教育の充実があります。将来を担う子どもたちに、

しっかりと育ちと学力を保証すべく、保育所における環境改善、学校給食費の補助単価のアップ、さらには学校教職員に対する町独自の加配措置を行い、子どもたち一人一人に、きめ細かく目の行き届いた教育にレベルアップしてまいります。それ以外にも、長年の懸案であった町土地開発公社所有の土地についても、町民の森として里山を体験する森林公園に活用することで、課題の解決と環境学習の向上につなげることを計画しております。なお、建設事業のかなりの部分について、工期の確保と有利な財源措置の活用を念頭におきながら、補正予算に前倒ししているほか、新年度予算の編成にあたっては、集落からの要望なども含め、積極的な予算計上にとめました。公債費負担が依然として高い水準にあるほか、地方交付税の見通しが不明確であるなど厳しい状況ではありますが、財政措置のある有利な地方債の活用などによって歳入の確保を図りながら、

町民生活の向上に結びつくよう事業を精査してまいったところであります。

このような考え方のもとで編成いたしました結果、今回の予算総額は、72億9,100万円と、前年度と比べて1億1,800万円の減、率にして1.6%減の予算規模となっております。

以下、平成25年度に講じようとする主な施策を

1. 地域産業・経済の活性化
2. 環境に配慮したまちづくりの推進
3. 協働のまちづくりの推進
4. 子育て環境の充実
5. 教育環境の充実
6. 健康の増進・福祉の充実
7. 農林業の活性化
8. 防災のまちづくりの促進

- 9. 観光の振興
- 10. 生活基盤の整備
- 11. 財政運営健全化

の項目に分けて、新規事業を中心にその内容を説明いたします。

1. 最初に「地域産業・経済の活性化」です。

企業誘致については、地域経済の活性化や雇用の場の確保を図る上で、もっとも重要な施策の一つです。昨年度はメガソーラーの建設、大殿地区での住宅建築の増加など、目に見えて活性化へつながるような効果も生まれています。25年度も住民雇用促進奨励金の拡充など進出企業や事業拡大企業を支援する措置を引き続き講じ積極的な取り組みを行ってまいります。

また、23年度大山ガーデンプレイスに導入した

ポスレジシステムを今年度大山望にも導入し、情報を共有化し、販売管理等の向上を目指します。さらに4年目を迎える「大山山麓リゾート観光・田舎もののマッチング事業」などと連携することで、地元産品の都市部での販路開拓・販路拡大など地域産業の発展につなげたいと考えております。

2. 次に「環境に配慮したまちづくりの推進」です。

これまでごみの減量化とリサイクルを推進するため、“使用済み紙おむつの燃料化”につきまして、効果の検証や実証実験を段階的にやってまいりました。

いよいよ今年度、収集からペレット化まで、一連の体制が整い、ペレットボイラーを設置する経費を予算計上しております。

また、昨年度から取り組まれている「こしが丘自治会」での“家庭生ごみの減量化”もいよいよス

ターゲットいたします。町としてもこうした集落等での取り組みがモデルケースとなり更なるごみの減量化につなげたいと考えております。

次に「太陽光発電システム助成事業」につきましても、CO₂の削減と自然エネルギーの導入促進を図るため、太陽熱温水器を新たに加え、予算枠を拡大しております。

次に集落等で積極的に取り組んでいただいている「LED街灯整備事業」です。今年度は設置要綱を柔軟に変更することで、街灯の設置をさらに推進し、防犯や通行の安全確保を図ってまいります。

最後に「町民の森整備事業」です。土地開発公社が所有する土地を豊かな自然が体験できる森林公園に活用することで、長年の懸案であった塩漬け土地の解消もでき、多くの町民の皆様に森林浴など散策を楽しみながら、環境学習などの向上を図っていただきたいと思います。

3. 次に「協働のまちづくりの推進」です。

平成24年度に地域づくり団体全国研修交流会鳥取大会分科会を伯耆町で開催したことをきっかけに町内の集落や任意団体による地域づくり活動の活性化を図る「協働のまちづくり普及促進事業」を計画しております。

そのほか、「日光地区交流促進事業」、地域リーダーの育成等を行う「ほうきまちづくり塾」、「パートナー職員制度」や「地区別懇談会」を継続実施し、さらなる住民と行政のパートナーシップ形成を図ってまいります。

さらに、今年は5月に「全国植樹祭」がとっとり花回廊を中心に開催されるほか、「エコツーリズム国際大会」「植田正治生誕100周年記念事業」など大型なイベントが予定されております。

これらのイベントを町民の皆様と一緒に盛

り上げていただき、県内外からおいで頂くお客様に伯耆町の良さを全面的にアピールしていきたいと思っております。

また、各集落から要望のありました、集落施設等の整備・改修事業につきましては、積極的に予算計上し、集落課題の早期解消を図ってまいります。

4. 次に「子育て環境の充実」であります。

保育所の受入体制として国が定める配置基準をもとに3歳児20人に対し1人の保育士を配置しておりましたが、保育の充実を図るため3歳児15人に対して1人の保育士を配置することとしております。

今年度も入所を希望される皆様の、多様な保育ニーズへの対応にお応えする予算措置を行い、働く親等の支援の充実を図ることとしております。

また、温暖化等による近年の急激な気温上昇に対処するため、町内全ての3歳児以上の保育室にエア

コンを設置し、保育環境の改善を図ってまいります。

そのほか、「放課後児童クラブ」や、乳幼児の“祖父母”等を対象とした「孫・ひ孫子育てセミナー」等を継続実施し、子育て環境の充実に努めてまいります。

5. 次に「教育環境の充実」です。

まず、重点的に取り組んでいます、学校施設の耐震改修等の促進です。一部、補正予算によって新年度事業を先取りする形で実施しておりますが、25年度事業としては溝口中学校体育館の耐震補強及び修繕の予算計上を行っております。

これで町内の小中学校の耐震改修等の目安が概ねついたものと考えております。

次に少人数学級実施事業として町独自に教員を配置する予算を計上し、小中学校全学年で、1学級30人以下の学級編成といたします。少人数化するこ

とにより、生徒一人一人にきめ細やかな指導ができ、基礎学力の向上を図るとともに、不登校生徒の増加を防ぎ、安定した学校生活を確保してまいりたいと考えております。

これと合わせ「少人数学級を活かす学びと指導の創造事業」などにより成果の把握、分析も行っており、さらに学校給食費の補助を1食当たり10円から30円にアップし保護者の皆様のご負担を軽減するよう予算計上しております。

6. 次に、「健康の増進・福祉の充実」です。

岸本温泉「ゆうあいパル」の温水プールを住民の健康づくりの場として利用していただくため、無料利用券を交付する予算を計上しております。このプールを利用しての健康づくりにつきましては、昨年から実施しております「健康ポイント制度」の対象にするなど制度の拡充もおこなっております。

また任意予防接種につきましては、新たに小児対象の「おたふくかぜワクチン」「水痘ワクチン」「ロタウイルスワクチン」「B型肝炎ウイルスワクチン」の4種類を追加し、罹患予防及び罹患時の重症化の予防を図ってまいります。

さらに今年度より国保加入者を対象としている人間ドックについて、従来の節目人間ドック以外の方に対し新たな人間ドック助成制度を設け、この経費を繰り出し金として予算計上しております。

一人一人が、自発的に健康づくりに取り組むことで、医療費や介護給付費の縮減に向けた基盤づくりにつなげていきたいと考えております。

次に「障害者雇用奨励金交付事業」を新たに計上し、障害者を雇用している事業主に対し国の助成終了後2年間を限度として引き続き町で助成することで障害者の雇用機会の増大を図ってまいります。

そのほか、生活保護や障害者福祉等の継続業務に

つきましても、積極的な予算計上に努め、支援を必要とされる方の立場に立った福祉行政の推進に努めてまいります。

7. 次に「農林業の活性化」です。

まず、48年ぶりに鳥取県で開催される全国植樹祭です。開催町として、新緑のフラワーパークの特設会場に県内外からおおよそ7000人の方をお迎えするのに必要な準備経費を予算計上しております。

次に昨年開催された「全国和牛能力共進会」で町内から出品され和牛が優秀な成績を収めました。この成果を出した要因として優良雌牛家畜導入を支援する施策があげられます。今年度は西部農協が優良と認めた雌牛を購入、或いは自家保留により雌牛を飼育する場合について、新たな増頭支援補助制度を計上しております。これを契機とし、さらなる伯耆和牛のブランド力の向上を図ってまいります。

次に荒廃竹林の整備です。伐採後の竹をチップ状に粉砕する機械を購入する予算を計上し、この機械を貸し出すことで町内の景観向上等につなげてまいります。

8. 次に「防災のまちづくり」です。

東日本大震災によって引き起こされた原子力発電所の事故等の教訓により、昨年度放射線量測定器を導入、また、災害時でも通信可能な衛星携帯電話の購入など迅速・適切な対応がとれるよう体制整備の推進を行っております。

今年度は、改定する伯耆町防災計画に合わせ、避難所看板・防火利水標識の設置、また、避難所で使用する発電機、灯光器、備蓄品などを配備するよう計画しております。

さらに本庁舎敷地内に防災機能を保有した車庫の建設も計画し災害対策の充実を図ってまいります。

個人住宅につきましても引き続き「太陽光発電システム助成事業」の予算枠を拡大するほか、「震災に強いまちづくり促進事業」において、住宅の耐震診断、住宅補強設計、住宅耐震改修の補助経費を予算計上し、住宅の防災機能の向上を図ってまいります。

さらに「被災者住宅再建支援助成事業」として新たに基金を創設することで、自然災害による住宅被害に備えてまいります。日ごろから防災訓練の実施など危機管理を徹底し“防災のまちづくり”を促進してまいります。

9. 次に「観光の振興」です。

まず、「鬼ミュージアム・おにっ子ランド」管理事業です。昨年度おにっ子ランドの遊園列車「弁慶号」及び鉄橋、橋脚の撤去をおこないました。

今年度この跡地利用として園内水路を埋立て、芝張を施工し、多くの町民の皆様に利用していただき

たいと思っております。

また、今年は大きなイベントが数多く開催されますので、梶水地内の観光案内看板の改修などお客様を迎える体制を整え引き続き観光の振興に努めてまいります。

10. 次に「生活基盤の整備」です。

まず、新たな取り組みとして「町道岸本停車場線道路改良事業」の実施です。この事業は、交差点の拡幅を行い交通の安全性を図り、舗装の老朽化による段差・側溝の排水不良などの解消も図ってまいります。事業期間は25年度から27年度を予定し今年度は測量設計などを行います。

次に「町道籠原栃原線道路改良事業」の実施です。この事業は県道大滝白水線のアクセス部分にある町道籠原栃原線の角盤橋の改良を行い利便性の向上を図ってまいります。事業期間は25年度から28年

度を予定し今年度は測量設計を行います。

そのほかも、ライフラインの整備として老朽化した桝水水道の整備を実施いたします。事業期間は平成25年度から26年度を予定し今年度は老朽管の布設替えを行います。

1 1. 次に「財政運営健全化」です。

財政運営の健全化については、引き続き基礎自治体としての最重要課題の一つと捉え、取り組んでまいります。特に本町の公債費負担は依然として高い水準となっており、今後、扶助費等の義務的経費の増大が予測されるため、なお一層の財政健全化に向けた取り組みが必要となってきます。

改めて、平成25年度一般会計当初予算編成の特徴としましては、地方交付税の見通しが不明確であり、非常に厳しい状況ではありますが、国・県支出金、基金取崩しや有利な地方債を活用し、歳入の確

保を行っております。

新たな取り組みとしましては、国民健康保険事業、簡易水道事業につきまして基金等が減少し、運営が厳しい状況であるため、一部繰出し基準等を見直し、特別会計繰出金を増額しています。

また、各集落からの要望等に積極的な予算計上を行い、必要な整備と地元企業の活性化につながるよう事業実施してまいります。

歳入についてですが、町税については、町民税の減収を見積る一方で、税源移譲によるたばこ税の増額等を見込んだ結果、全体では0.5%の減と見積もっています。また、不景気等の影響や地方への配分が減少するため、地方譲与税・各種交付金の減収を見積もっております。

普通交付税については、国の地方財政計画で大幅な減額が示されているところであり、不明確な要素が多いことから、公債費の増加等、確実に見込まれ

る部分について試算を行い、24年度交付実績に比べて、1.4%の減少を見積もっております。

以上、平成25年度伯耆町一般会計予算の内容を御説明いたしました。